

住宅用火災警報器奏功事例

大和市内で発生した住宅用火災警報器の奏功事例を掲載しております。

【令和5年5月】

5階建て共同住宅の1階部分から出火、上階の住民が住宅用火災警報器の鳴動音に気付き、火災を早期に発見し119番通報したものの。

【早期発見により、被害を最小限に抑えることができた事例】

【令和3年2月】

3階建て共同住宅の2階部分から出火、居住者は不在であったが隣人が住宅用火災警報器の鳴動音に気付き119番通報したことで延焼拡大に至らなかったものの。

【早期通報により、被害を最小限に抑えることができた事例】

【令和3年1月】

5階建て共同住宅の2階部分で、高齢の居住者が鍋を火にかけてそのまま放置してしまい、発生した煙で住宅用火災警報器が作動。隣戸の居住者が警報音に気付き、居住者に知らせコンロのスイッチを切ったことにより、火災に至らなかったものの。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【令和2年12月】

2階建て専用住宅の居住者が、鍋を火にかけてそのまま外出してしまい、発生した煙で住宅用火災警報器が作動。隣戸の居住者が警報音に気付き、早期に119番通報したことにより、火災に至らなかったものの。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【令和2年4月】

2階建て共同住宅において、1階居住者が鍋を火にかけてそのまま寝てしまい、発生した煙で住宅用火災警報器が作動。2階居住者が警報音に気付き、居住者に知らせたことにより、火災に至らなかったものの。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【令和2年3月】

2階建て共同住宅において、1階居住者がたばこを消し忘れ寝てしまい、住宅用火災警報器の作動により火災の発生に気づき初期消火したものの。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【令和元年 12 月】

2階建て一般住宅において、1階で作動した住宅用火災警報器の警報音に2階居室にいた居住者も気づき、119番通報を素早く行うことができた。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 30 年 10 月】

3階建て共同住宅において、3階居住者が鍋を火に掛けたのを忘れ、住宅用火災警報器の作動により火災に至らなかったもの。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 30 年 9 月】

2階建て共同住宅において、1階の住宅用火災警報器の警報音を2階居住者が気づき、火災を発見。119番通報し近隣住民が初期消火に成功した。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 29 年 7 月】

2階建て一般住宅、1階台所で鍋を火に掛けていることを忘れ、住宅用火災警報器の作動により、火災に至らなかったもの。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 29 年 4 月】

2階建て共同住宅の1階の居住者が、喫煙中に眠ってしまい、たばこの火が掛布団及びマットレスに着火し、住宅用火災警報器の作動により、居住者が早期に発見し、初期消火を行うことができた。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 28 年 7 月】

3階建て共同住宅、3階の居住者が鍋を火に掛けたことを忘れ、住宅用火災警報器の作動により、居住者が異変に気づき、初期消火を行うことができた。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 28 年 1 月】

2階建て一般住宅、1階寝室で就寝中の夫が住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、台所でコンロを使用の際、誤って着衣着火した妻を発見し、消火を確認するとともに、119番通報した。

【早期発見により、命を取りとめることができた事例】

【平成 27 年 12 月】

2 階建て共同住宅、1 階の居住者が鍋を火に掛けたことを忘れ、別の部屋にいたところ鍋の空焚きにより発生した煙で住宅用火災警報器が作動し、隣人が警報音と煙に気付き、119 番通報できた。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 27 年 12 月】

2 階建て共同住宅、1 階の居住者が鍋を火に掛けたことを忘れ外出した。鍋の空焚きにより発生した煙で住宅用火災警報器が作動し、隣人が警報音と煙に気付き、119 番通報できた。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 27 年 7 月】

5 階建て共同住宅、4 階の居住者が鍋を火に掛けたことを忘れ外出した。鍋の空焚きにより発生した煙で住宅用火災警報器が作動し、隣人が警報音に気付き、119 番通報できた。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 26 年 6 月】

2 階建て共同住宅で、2 階の居住者が鍋を火に掛けたまま寝てしまったが、住宅用火災警報器の警報音に下階の住人が気付き、発災前に 119 番通報できた。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 25 年 8 月】【平成 26 年 9 月】

居住者が調理中の鍋を火にかけてたことを忘れ外出してしまい、鍋から立ち上がった煙で住宅用火災警報器が作動し、近所の人が警報音に気付き発災前に 119 番通報できた。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 26 年 4 月】

居住者が台所で鍋を火に掛けたことを忘れ居間にいたところ、住宅用火災警報器の警報音がしたことで鍋の空焚きに気付き、火災に至らずに済んだ。

【早期発見により、発災防止に役立った事例】

【平成 26 年 4 月】

隣の家で住宅用火災警報器の警報音がしていたので確認すると、居室内から火煙が見えたので初期消火を行い成功した。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 26 年 3 月】

3 階建て一般住宅で、3 階に設置してある住宅用火災警報器の警報音を下階にいた居住者が気付き、3 階を確認すると居室内から火煙が見えたので初期消火を行い成功した。

【早期発見により初期消火したことで、被害を最小限に抑えることができた事例】

【平成 25 年 12 月】

居住者が就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、室内に煙が充満していたので、外へ避難し大事に至らずに済んだ。

【早期発見により避難したことで、命を取りとめることができた事例】